

# 大規模災害対応訓練

資料2

日時：令和6年3月11日（月）～3月12日（火）

場所：大牟田市消防本部

## 訓練の目的

### 緊急消防援助隊派遣時の活動把握と連携強化

- ・被災地でスムーズな活動をするための活動要領把握
- ・職員同士の効果的なコミュニケーション、連携強化、協力体制の構築



### 大規模災害発生時（大牟田市）の対応力向上

- ・大規模災害発生時の即時対応力向上
- ・適切な情報共有と連携体制の確立
- ・被災者へのサポートや救援活動の強化



# 訓練の効果

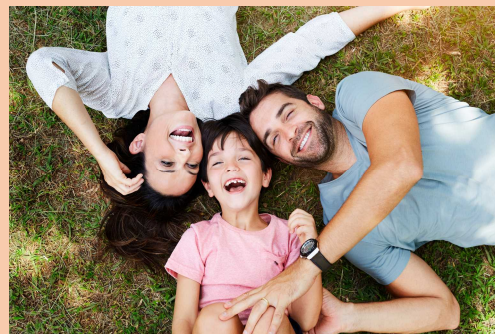
## 消防職員への効果

- 派遣時の活動要領が明確になることで、職員は迅速で効果的な対応が可能となり、任務遂行の信頼性が向上する
- 訓練を通じた連携強化は、チームワークの向上に繋がり、職員間の信頼関係が構築される



## 市民への効果

- 大牟田市が被災した際に、より迅速で的確な対応が期待でき、市民の安心感が向上する
- 被災地での消防活動の複雑性や重要性を理解していただくための機会となり、市民とのコミュニケーション強化を通じて、災害時の理解が深まる



## 訓練想定

雲仙断層群南東部の島原湾側延長域を震源地とするマグニチュード7.1、震源の深さ10kmの地震が発生。市内において最大震度6強を観測。家屋被害643件、火災件数38件、死者数26人、避難者数455人、負傷者数269人の被害が発生したものの。

(職員が実施する訓練)

訓練名	担当課	概要
職員参集訓練	全課	災害メール配信システムによる徒歩での参集訓練
食料調達訓練	総務課	緊急消防援助隊で使用する食料の調達訓練
炊き出し訓練	総務課・警防課	食料調達を基に「だご汁」を調理
広報・情報伝達訓練	予防課	災害対応車による付近住民への広報
震災対応訓練	警防課	建物倒壊による要救助者の救出訓練
野営訓練	警防課	災害用緊急エアテントを設営し、宿泊体験を実施

(市民が参加できる訓練)

訓練名	種類	備考
炊き出し訓練	見学	実際に応急給食訓練を見学し、炊き出しを味わう ※器・箸は持参
災害用緊急エアテント	体験	災害用緊急エアテント内での避難体験
震災対応訓練	見学	震災対応訓練の様子を近くで見学



# 震災救助訓練（概要）

## 【目的】

今後発生が懸念される大規模地震発生時の対応力を強化する。

## 【想定】

島原半島付近の雲仙断層群南東部を震源地とするマグニチュード7.1の地震が発生、市内において最大震度6強を観測。市内某所にて木造平屋建一般住宅が座屈し、居住者の安否確認が取れないもの。

## 【現場状況】

発災後、5時間程度経過し現場到着。木造平屋建一般住宅が倒壊し座屈状態。付近住民から居住者情報あり（住基情報では高齢夫婦居住）、発災直後は呼びかけに反応があったもの。建物倒壊により開口部は全て座屈し進入不可。危険物、ガス等のハザードはなし。

## 【訓練主眼】

1. 建物倒壊現場における活動管理要領の確認（ゾーニング、倒壊危険・余震等の危険情報）
2. 受傷機転及び要救助者状態に応じた救助活動の実施
3. 長時間活動に対する時間管理及び活動隊員のローテーション等、指揮系統の確認

## 【訓練実施隊】

指揮小隊、特別救助小隊、本署小隊  
明治2小隊（訓練支援）

※資器材については、各訓練実施隊保有資器材を使用

# 炊き出し訓練（概要）

## 【目的】

災害発生時における消防活動を迅速・効果的に行うため食料の確保が必要となることから、食料調達から配食までの一連の要領を習得する。

## 【想定】

災害による長期的な現場活動が予測されるため、総務課職員により、早期に食材を調達し炊き出しを実施する。また、消防本部庁舎への一時避難者もいることが予想されるため、職員に加え付近住民への配食も実施。

## 【状況】

消防本部の備蓄食料では対応が困難。継続的な消防活動を実施するためにも、早期に食材を調達する必要がある。

## 【訓練主眼】

1. 災害発生後、早期に食材調達及び配食体制を確保
2. 訓練により、備蓄する食材、設備、衛生面で必要となる物品を再確認

## 【訓練実施隊】

食料調達：総務課（財務管理係職員）

炊き出し：警防課、総務課